編集後記

１９９９年１２月１３日（月）と１４日（火）に開催されましたこのワークショップは、旧原子核研究所で建設されたテストリング「TARN2」のＲＣＮＰへの移設の可能性を念頭に、展開できる物理の可能性を検討する会として開催されました。

「TARN2」では、加速系の整備によって 1.1GeV までの陽子・300MeV/A までの軽重イオンを供給できる能力を持っており、現有リングサイクロトロンでのエネルギー領域の上のエネルギー領域ををカバーする中期計画として期待が寄せられていました。

ワークショップでは、約２０名による講演・研究テーマの提案をもとに活発な議論がなされ、このエネルギー領域のビームに対する関心・希望が高いことが示されました。また、核物理のみならず、ビーム物理や学際分野での応用についても言及がありました。

「TARN2」については、現在の保有者である KEK から移設希望の有無を回答する様迫られており、また、他機関からも既に希望が出されているという事情があったために、ワークショップでの検討結果をも踏まえて RCNP 内で議論の機会を持ちました。その結果、残念ながら合意に達するには至らず、その旨を KEK に回答することとなりました。

ワークショップでの講演者・出席者の方々に対し、そのご協力を感謝すると共に、ワークショップ・移設計画の提案者として、RCNP 内の意見をまとめ得なかった力不足をお詫びする次第です。また、協力願った皆様に議論に参加していただくことなく RCNP としての結論を出すことになってしまった点、またこのような重大な事項は本来は研計委、核運委の議を経て決定すべきことであるなど、共同利用研として不適切であった面も否めませんが、返答期日が迫っていたこと等、事情をご賢察願えれば幸いです。

今回の「TARN2」移設の計画自身は一旦停滞することとなりますが、議論戴いた結果を残し、今後の参考とするために本報告を作成致しました。今後、何らかの機会にこのエネルギー領域での研究が展開できることを願っております。

１９９９年１２月　　ワークショップ世話人　　京大理　坂口 治隆
RCNP　野呂 哲夫
RCNP　畑中 吉治